

1.	②	11.	②	21.	④	31.	②	41.	①
2.	④	12.	③	22.	①	32.	③	42.	①
3.	④	13.	④	23.	④	33.	①	43.	④
4.	①	14.	③	24.	①	34.	②	44.	③
5.	④	15.	①	25.	②	35.	④	45.	④
6.	①	16.	③	26.	④	36.	②	46.	④
7.	②	17.	④	27.	②	37.	①	47.	④
8.	②	18.	①	28.	③	38.	①	48.	②
9.	④	19.	①	29.	①	39.	③	49.	③
10.	③	20.	②	30.	②	40.	②	50.	④

1.

解答 ②

【解説】

正解は②の『carefully』です。この副詞は、ミスをしないように、あるいは何かを壊したり危険な状況になったりするのを避けるために、「注意深く、慎重に」行動する様子を表します。形容詞の'careful'（注意深い）に '-ly' が付いて副詞になった形ですね。壊れやすいガラス製品を運ぶという、まさに注意が必要な状況にぴったりの単語です。他の選択肢は、それぞれ異なる動作の様子を表す副詞です。①の『quickly』は「速く」。③の『quietly』は「静かに」。④の『heavily』は「重々しく、激しく」です。これらの副詞は、動詞を修飾して、その動作がどのように行われたかを具体的に説明する上で欠かせません。

◆補足：『carefully』の反対の概念を表す副詞は『carelessly』（不注意に、うっかりと）です。この対義語も一緒に覚えておくと、表現の幅が広がります。例文: "Please read the instructions carefully before you assemble the furniture."（家具を組み立てる前に、説明書を注意深く読んでください。）

2.

解答 ④

【解説】

正解は④「結婚する」です。`get married`は、「結婚する」という動作や変化を表す最も一般的な口語表現です。`married`は「結婚している」という状態を表す形容詞で、`get`と結びつくことで「結婚している状態になる」という意味になります。`My cousin is getting married in June.`（私のいとこは6月に結婚します）。①「婚約する」は`get engaged`、②「離婚する」は`get divorced`、③「デートする」は`go on a date`などが適切な表現です。

◆補足：`marry`という動詞も「～と結婚する」という意味ですが、`get married`の方が会話では頻繁に使われます。`get married to ～`で「～と結婚する」という形になります。`She got married to her high school classmate.`（彼女は高校の同級生と結婚した）。

3.

解答 ④

【解説】

正解は④「太平洋」です。`the Pacific Ocean`は、アジア、オーストラリア、南北アメリカ大陸に囲まれた世界最大の海洋です。`Pacific`は「平和な、穏やかな」という意味の形容詞です。①「大西洋」は`the Atlantic Ocean`、②「インド洋」は`the Indian Ocean`、③「日本海」は`the Sea of Japan`です。`Ocean`（大洋）や`Sea`（海）などの特定の地理的な名前には、原則として定冠詞の`the`が付きます。

◆補足：世界の五大洋は、`the Pacific Ocean`（太平洋）、`the Atlantic Ocean`（大西洋）、`the Indian Ocean`（インド洋）、`the Arctic Ocean`（北極海）、`the Antarctic/Southern Ocean`（南極海）です。地図を見ながら英語名を覚えると、記憶に残りやすくなります。

4.

解答 ①

【解説】

正解は①「～の初めに」です。`at the beginning of ～`は、「～の冒頭に、～の開始時点で」という意味の熟語です。期間や物事の始まりの時点を指します。`The new system will be introduced at the beginning of next year.`（新しいシステムは来年の初めに導入される）。②「～の代わりに」は`in place of ～`、③「～の終わりに」は`at the end of ～`で対義表現です。④「～の真ん中に」は`in the middle of ～`です。

◆補足：動詞`begin`（始まる）の名詞形`beginning`を使った表現です。`from the beginning`で「最初から」。`in the beginning`は「初めのうちは（後で変わった）」というニュアンスで使われることがあります。

5.

解答 ④

【解説】

正解は④の`be satisfied with ～`で、「～に満足している」という意味です。自分の期待や要求が満たされ、満足している状態を表します。`I'm not satisfied with my test results.`（私は自分のテストの結果に満足していない）。他の選択肢は、①`be surprised at ～`が「～に驚いている」、②`be filled with ～`が「～で満たされている」、③`be covered with ～`が「～で覆われている」という、それぞれ`be` + 過去分詞 + 前置詞の形の重要な熟語です。

◆補足：`satisfied`は動詞`satisfy`（～を満足させる）の過去分詞形が形容詞として使われている形です。名詞形は`satisfaction`（満足）です。`customer satisfaction`（顧客満足度）はビジネスの分野でよく使われる言葉です。

6.

解答 ①

【解説】

正解は①「社会」です。`society`は、人々が共同で生活している、ある程度の秩序を持った集団、つまり「社会」や、特定の目的で集まった「協会、団体」を意味する名詞です。`The role of education in society is extremely important.`（社会における教育の役割は極めて重要だ）。②「安全」は`safety`、③「静けさ」は`silence`、④「種類」は`variety`が適切な単語です。

◆補足：形容詞形は`social`（社会の、社交的な）です。`social issues`（社会問題）や`social networking service (SNS)`（ソーシャルネットワーキングサービス）など、`social`を使った複合語は非常に多く、重要です。

7.

解答 ②

【解説】

正解は②「そういうわけで…だ」です。`that is why…`は、前に述べた事柄を「理由」として、その「結果」を導くときに使う接続詞的な表現です。`He practiced very hard. That is why he won the championship.`（彼は非常に熱心に練習した。そういうわけで彼は選手権に優勝したのだ）。①「…というのは～だからだ」と理由を説明する場合は`this is because …`を使い、因果関係が逆になります。③「たとえ…でも」は`even if …`、④「…かどうかということだ」は`the question is whether …`などが適切な表現です。

◆補足：口語では`That's why …`のように、`That is`を短縮した形が頻繁に使われます。「理由 (A). That's why 結果 (B).」という因果関係の流れをしっかりと理解することが、論理的な英文読解や英作文の鍵となります。

8.

解答 ②

【解説】

正解は②の『center』です。この単語は、ある場所や物の「中心、真ん中」を指す最も基本的な名詞です。日本語の「センター」と同じ感覚で使うことができます。町を中心、円の中心など、地理的な中心だけでなく、注意や活動の「中心」といった比喩的な意味でも使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる場所を指します。①の『corner』は「角、隅」。③の『edge』は「端、へり」。④の『entrance』は

「入り口」です。これらの位置を表す単語は、場所を説明する際に非常に重要なので、それぞれの意味を正確に理解しておきましょう。

◆補足：ショッピングセンター（shopping center）や、スポーツセンター（sports center）のように、様々な施設が集まる「中心的な場所」という意味で、建物の名前にもよく使われますね。形容詞の 'central'（中心の）も重要な派生語です。イギリス英語では 'centre' と綴られることもあります。意味は同じです。例文: "There is a large fountain in the center of the square."（その広場の中心には、大きな噴水がある。）

9.

解答 ④

【解説】

正解は④の「計画」です。『project』は、特定の目的を達成するために、注意深く計画され、実行される仕事や活動のことを指します。日本語の「プロジェクト」とほぼ同じ意味で使われることが多いです。学校での研究課題、会社での新製品開発、地域のイベント開催など、個人的なものから大規模なものまで、様々な「計画」や「事業」を指すことができます。他の選択肢はそれぞれ意味が異なります。①の「予測」は 'prediction' や 'forecast'。②の「贈り物」は 'present' や 'gift'。③の「主題」は 'subject' や 'theme' となります。これらの単語は、ビジネスや学校の文脈でよく登場するので、区別して使えるようにしておきましょう。

◆補足：動詞として使う場合は、発音が変わり、「プロジェクト」のように後ろにアクセントが置かれます。意味は「～を計画する」の他に、「～を予測する」や「～を投影する」などがあります。プロジェクター（projector）は、映像を映し出す（project する）機械ですね。まずは名詞としての「計画」をしっかりと覚えましょう。

10.

解答 ③

【解説】

正解は③の 'in general' で、「一般的に、概して、普通は」という意味です。前の問題の 'generally' とほぼ同じ意味で、文頭や文末に置かれて、一般的な傾向や事実を述べる時に使います。'In general, the earlier you book, the cheaper the ticket is.'（一般的に、予約が早ければ早いほど、チケットは安くなる）。他の選択肢は、① 'in particular' が「特に、とりわけ」、② 'in short' が「要するに」、④ 'in return' が「お返しに」という意味です。

◆補足：'in general' は、'on the whole'（概して）とも意味が近いです。これらの接続副詞的な表現を使いこなせると、文章に論理的な流れを作ることができ、英作文などで高い評価を得やすくなります。

11.

解答 ②

【解説】

正解は②の『share』です。この単語は、「～を共有する、分け合う、一緒に使う」という意味を持つ動詞です。一つのを複数の人で分け合って使ったり、楽しんだり、負担したりする、という協調的なニュアンスがあります。ピザや部屋、情報、意見など、様々なものを目的語に取ることができます。問題の状況のように、食べ物を仲良く分け合う場面にぴったりの単語です。他の選択肢も「分ける」に関連する動詞ですが、ニュアンスが異なります。①の『divide』は、全体をいくつかの部分に「分割する、割る」という、より機械的・数学的な意味合いが強いです。③の『separate』は、くっついているものを「引き離す、分離する」という意味。④の『give』は、一方的に「与える、あげる」という意味です。

◆補足：『share A with B』の形で「A を B と分け合う」という使い方は非常に重要です。例文: "He shared his umbrella with me." (彼は私に傘を貸してくれた。/相合い傘をしてくれた。) このように、親切な行為を表す際にもよく使われます。

12.

解答 ③

【解説】

正解は③の`complain`で、「不平を言う、苦情を言う」という意味の動詞です。何かに対して不満や不快感、痛みを言葉で表明することを表します。`Several customers complained about the slow service.` (何人かの客が、サービスの遅さについて不平を言った)。他の選択肢は、①`complete`が「～を完成させる」、②`compare`が「～を比較する」、④`contain`が「～を含む」という意味です。

◆補足：名詞形は`complaint` (不平、苦情) です。`make a complaint`で「苦情を言う」となります。`complain to 人 about 物事`で「(人) に (物事) について不平を言う」という形でよく使われます。

13.

解答 ④

【解説】

正解は④の「床、階」です。『floor』には、主に二つの重要な意味があります。一つは、私たちが立ったり歩いたりする部屋の「床」です。もう一つは、ビルなどの建物の「階」です。例えば、"the first floor" は「1 階」(イギリス英語では「2 階」)、"the second floor" は「2 階」を指します。このように、同じ単語が全く異なるものを指すことがあるので、文脈からどちらの意味で使われているかを判断することが大切です。①「天井」は`ceiling`、②「壁」は`wall`、③「庭」は`garden`です。家や建物に関するこれらの基本的な単語は、日常生活を描写する上で欠かせません。

◆補足：「階」として使う場合は、"My office is on the fifth floor." (私のオフィスは 5 階にあります。) のように、前置詞に`on`を使うのが一般的です。「床」としては "Please don't put your bag on the floor." (床にカバンを置かないでください。) のように使います。

14.

解答 ③

【解説】

正解は③の`lead`で、主に二つの意味があります。一つは、グループやチームの先頭に立って「～を率いる、導く」という意味です。もう一つは、`lead a ... life`の形で「(～な) 生活を送る」という意味です。`She was chosen to lead the project team.`(彼女はそのプロジェクトチームを率いるために選ばれた)。`He leads a simple but happy life.`(彼は質素だが幸せな生活を送っている)。他の選択肢は、①`load`が「～を積む」、②`read`が「～を読む」、④`leave`が「～を去る」という意味です。

◆補足：`lead`の活用は`lead - led - led`と不規則に変化し、発音も「リード - レッド - レッド」と変わるので注意が必要です。名詞形は`leader`（指導者）、`leadership`（指導力）です。

15.

解答 ①

【解説】

正解は①の『leave』です。この動詞は、「(ある場所に物を) 置いたままにする、置き忘れる」という意味で使われます。どこに忘れたかが分かっている場合に使うのがポイントです。他の選択肢も「忘れる・なくす」に関連する重要な単語で、使い分けが非常に重要です。②の『forget』は、記憶から何か抜け落ちる「(～を) 忘れる」や、「(～するのを) 忘れる」という意味で、主に頭の中の問題を指します。③の『lose』は、どこへ行ったか分からなくなってしまった「～を失う、なくす」という意味です。④の『drop』は「～を落とす」という動作を指します。「電車の中に」という場所が特定されているこの文脈では、『leave』が最も適切です。

◆補足：『leave』には、他にも「(場所を) 去る、出発する」という非常に重要な意味があります。例えば、"The train leaves at ten." (その電車は 10 時に出発する。) のように使います。文脈によって意味が変わる多義語なので、注意しましょう。例文: "I think I left my smartphone on the table at the restaurant." (レストランのテーブルにスマートフォンを置き忘れてきたと思う。)

16.

解答 ③

【解説】

正解は③「～を引き起こす、～の原因となる」です。動詞の`cause`は、ある出来事や状況が、別の（特に好ましくない）結果を生じさせる原因となることを意味します。`Careless mistakes can cause serious accidents.`(不注意なミスが深刻な事故を引き起こすことがある)。①「～を閉じる」は`close`、②「～を選ぶ」は`choose`、④「～を捕まえる」は`catch`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`cause`は名詞として「原因」という意味でも使われ、`result`（結果）や`effect`（影響、効果）と対で使われることが多いです。`What was the cause of the fire?`（その火事の原因は何でしたか?）。`cause and effect`（原因と結果）という関係性を理解することは、論理的な思考の基本です。

17.

解答 ④

【解説】

正解は④の`attraction`で、「魅力」や「人を引きつける場所・もの」を意味します。人や物の魅力そのものや、観光名所、遊園地の乗り物などを指します。`The main attraction of the festival is the parade.`（その祭りの主な呼び物はパレードだ）。他の選択肢は、①`attention`が「注意、注目」、②`action`が「行動」、③`auction`が「競売、オークション」という意味です。

◆補足：`attraction`は動詞`attract`（～を引きつける、魅了する）の名詞形です。形容詞形は`attractive`（魅力的な）です。`a tourist attraction`で「観光名所」という決まった言い方になり、旅行の文脈で頻出します。

18.

解答 ①

【解説】

形容詞「fair」の中心的な意味は「公平な、公正な」です。偏りがなく、誰に対しても正しいやり方であることを示します。したがって、正解は①「公平な」です。②「自由な」は`free`、③「恐れている」は`afraid`、④「確信して」は`sure`や`certain`で表します。

◆補足：`fair`には他にも「（髪や肌の色が）金色の、色白の」や「（天気）が 晴れの」、「（数量などが）かなりの」など、多くの意味があります。文脈に応じて意味を判断する必要がありますが、まずは「公平な」という基本義をしっかり押さえましょう。名詞として「博覧会、見本市」という意味もあります。`That's not fair!`は「それは不公平だ!」という決まり文句です。

19.

解答 ①

【解説】

正解は①「実に、本当に」です。`indeed`は副詞で、前の文の内容や発言を強く肯定したり、強調したりする際に使われます。`very`を使った形容詞や副詞の後に置いて、さらに強調する用法がよく見られます。`It was a very impressive performance indeed.`（実に感動的な演技だった）。②「その代わりに」は`instead`、③「屋内に」は`indoors`、④「親切に」は`kindly`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`A: It's cold today. B: Yes, indeed.`（A: 今日は寒いですね。B: ええ、本当に）のように、相手の発言に強く同意を示す返事として使われます。また、`Thank you very much indeed.`は「本当にどうもありがとうございます」という、非常に丁寧で心のこもった感謝の表現になります。

20.

解答 ②

【解説】

正解は②の`wheelchair`で、「車いす」を意味します。`wheel`（車輪）と`chair`（いす）が組み合わさってできた単語です。`The new building is equipped with wheelchair ramps.`（その新しい建物には車いす用のスロープが備え付けられている）。他の選択肢は、①`wheelbarrow`が工事現場などで使う「（一輪の）手押し車」、③`armchair`が「ひじ掛けいす」、④`chairlift`がスキー場の「チェアリフト」という意味です。

◆補足：`a wheelchair user`（車いす利用者）、`wheelchair accessibility`（車いすでの利用しやすさ）、`be in a wheelchair`（車いす生活である）。

21.

解答 ④

【解説】

正解は④の`provide A with B`で、「A（人など）にB（必要な物）を供給する、与える」という意味の構文です。`A`には供給される対象（主に人）、`B`には供給される物が入ります。`The organization provides homeless people with food and shelter.`（その組織はホームレスの人々に食料と避難場所を提供している）。他の選択肢は、①`present A with B`が「AにBを贈呈する」で、より儀式的なニュアンスです。②`supply A to B`や③`offer A to B`は語順が逆で、それぞれ`supply B to A`、`offer B to A`の形が一般的です。

◆補足：`provide`を使ったもう一つの重要な形が`provide B for A`です。`This website provides useful information for travelers.`（このウェブサイトは旅行者のために役立つ情報を提供している）。`provide A with B`と`provide B for A`は書き換え可能ですが、`provide A with B`の形の方がより頻繁に使われる傾向があります。

22.

解答 ①

【解説】

正解は①「私的な、個人の」です。`private`は形容詞で、公（`public`）のものではなく、特定の人やグループだけに関わる事柄や、他人に知られたいくない個人的な事柄を指します。`The star's private life is often reported in the media.`（そのスターの私生活は、しばしばメディアで報じられる）。②「公共

の」は`public`で、`private`の明確な対義語です。③「貴重な」は`precious`や`valuable`、④「人気のある」は`popular`が適切な単語です。

◆補足：コロケーションとしては、`private information`（個人情報）、`private school`（私立学校）、`private property`（私有財産）などがあります。名詞形は`privacy`（プライバシー）で、`respect one's privacy`（プライバシーを尊重する）のように使われます。

23.

解答 ④

【解説】

正解は④「反対側の、正反対の」です。形容詞の`opposite`は、位置関係が「向かい側の」であることや、性質、意味、意見などが「正反対の」であることを示します。`We have opposite views on this matter.`（私たちはこの件に関して正反対の見解を持っている）。①「同じ」は`same`、②「似ている」は`similar`、③「隣の」は`next`や`neighboring`が適切な単語です。

◆補足：`opposite`は名詞として「正反対の人（物）」、前置詞として「～の向かいに」という意味でも使われます。`I sat opposite him during the meal.`（食事の間、私は彼の向かいに座った）。`the opposite sex`（異性）という表現もよく使われます。

24.

解答 ①

【解説】

正解は①の「家にいるように感じる」です。『feel at home』は、文字通り「家で感じる」ということから、「（他の場所にいても）自分の家にいるようにリラックスする、くつろぐ、気楽に感じる」という意味で使われる表現です。物理的に家にいることではなく、心理的な快適さを表すのがポイントです。②の「家に帰りたいたいと感じる」(`want to go home`)は、むしろその場所に居心地の悪さを感じている状態であり、正反対の気持ちです。③や④も、この熟語が持つ「安心感」や「快適さ」のニュアンスとは異なります。言葉の表面的な意味だけでなく、その裏にある感情や状況を想像することが、熟語をマスターするコツですよ。

◆補足：人の家を訪れた客に対して使う決まり文句に "Make yourself at home." があります。これは「どうぞ、ご自分の家のようにくつろいでくださいね」という、おもてなしの心を示すためのとても温かい言葉です。もし誰かに言われたら、"Thank you, I will."（ありがとう、そうさせてもらうね）などと返事をするとうれしいでしょう。

25.

解答 ②

【解説】

正解は②「(病気などで) 寝ている」です。`stay in bed`は、特に病気や体調不良のときに、安静にするためにベッドから出ずに過ごすことを表します。`I had a bad cold, so I stayed in bed all day.`(ひどい風邪をひいていたので、一日中寝ていた)。①「寝る、就寝する」は`go to bed`、③「(起きた後に) ベッドを整える」は`make the bed`、④「ベッドから起き上がる」は`get out of bed`という、それぞれ`bed`を使った異なる表現です。

◆補足：`stay`には「とどまる、～のままでいる」という意味があります。`stay home` (家にいる) や `stay positive` (前向きでいる) のように、ある場所や状態を「維持する」というニュアンスで使われます。

26.

解答 ④

【解説】

正解は④の`introduction`で、「紹介」や「導入」を意味する名詞です。人や物事を初めて他の人に知らせる「紹介」や、本やスピーチの冒頭の「導入部分」、新しい制度などの「導入」といった幅広い意味で使われます。`The book begins with a brief introduction to the author's life.` (その本は著者の人生の簡単な紹介から始まっている)。他の選択肢は、①`interaction`が「交流、相互作用」、②`invention`が「発明」、③`instruction`が「指示、取扱説明書」という意味です。

◆補足：`introduction`の動詞形は`introduce` (～を紹介する、～を導入する) です。`introduce A to B`の形で「A を B に紹介する」という構文は必須です。`He introduced his girlfriend to his parents.` (彼はガールフレンドを両親に紹介した)。

27.

解答 ②

【解説】

正解は②「問題 (点)、論点、(雑誌などの) 号」です。名詞の`issue`は、議論や検討が必要な「問題 (点)、論点」や、雑誌や新聞の「～号」といった意味を持つ重要な単語です。`We need to address the issue of an aging society.` (私たちは高齢化社会の問題に取り組む必要がある)。`the latest issue of a magazine` (雑誌の最新号)。①「組織」は`organization`、③「招待」は`invitation`、④「ティッシュ」は`tissue`です。

◆補足：`problem`も「問題」ですが、`issue`はより公的で、社会的に議論されるべき「論点」というニュアンスが強いです。動詞の`issue`は「～を発行する、発令する」という意味でも使われます。`The government issued a new passport.` (政府は新しいパスポートを発行した)。

28.

解答 ③

【解説】

正解は③の「国籍」です。『nationality』は、ある人がどの国の国民であるか、つまり、その人の「国籍」を示す名詞です。入国審査の書類や公的な書類などで、記入を求められることが多い単語です。他の選択肢も、国に関連する重要な単語ですが、意味が異なります。①の「国民性」は 'national character'。②の「国家」は 'nation' や 'state'。④の「国際化」は 'internationalization' となります。これらの単語は、'nation' (国) という共通の語源から派生していますが、それぞれが指す概念は異なるため、正確に区別して覚えることが重要です。

◆補足：'nation' (国、国民) → 'national' (国の、国民の) → 'nationality' (国籍) という派生の流れを理解すると、単語の関係性が分かり、記憶に残りやすくなります。例文: "What is your nationality?" (あなたの国籍はどこですか?) という質問に対しては、"I'm Japanese." (私は日本人です。) と答えるのが一般的です。

29.

解答 ①

【解説】

正解は①「ふつうの、共通の」です。`common`は形容詞で、「よくある、ありふれた」ことや、複数の人や物に「共通の」であることを示します。`It's a common belief that black cats bring bad luck.` (黒猫が不運をもたらすというのは、よくある言い伝えだ)。`We share a common interest in music.` (私たちは音楽という共通の興味を持っている)。②「珍しい」は`rare`や`uncommon`、③「特別な」は`special`、④「複雑な」は`complex`です。

◆補足：`common sense`で「常識」を意味します。`have something in common`で「共通点がある」という重要な熟語になります。

30.

解答 ②

【解説】

正解は②「～に近づく」です。動詞の`approach`は、ある場所、時間、あるいは状態にだんだんと「近づく、接近する」という過程を表します。`The train is now approaching the station.` (電車はまもなく駅に到着します)。`As the deadline approached, she started to feel stressed.` (締め切りが近づくにつれて、彼女はストレスを感じ始めた)。①「～に到着する」は`arrive at`や`reach`、③「～に入る」は`enter`、④「～に触れる」は`touch`です。

◆補足：`approach`は名詞として「接近」の他に、問題などへの「取り組み方、アプローチ」という重要な意味があります。`We need to find a new approach to solve this problem.` (私たちはこの問題を解決するために新しいアプローチを見つける必要がある)。

31.

解答 ②

【解説】

正解は②「国家、国民」です。`nation`は、共通の言語、文化、歴史などを持ち、特定の領土に住む人々の共同体、つまり「国家、国」を指します。また、集合的にその国の「国民」全体を意味することもあります。`The whole nation was excited about the victory.`（国中がその勝利に沸いた）。①「自然」は`nature`、③「地域」は`region`、④「通知」は`notice`が適切な単語です。

◆補足：`country`も「国」と訳されますが、`country`が地理的な領土を指すことが多いのに対し、`nation`は人々や文化、政治体制を含んだ「国家共同体」というニュアンスが強いです。形容詞形は`national`（国家の、国民の）です。`the United Nations`（国際連合）。

32.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～と同様に、～もまた」です。『as well』は、文の終わりに置かれて、「～もまた、同様に」という追加の情報を示す働きをします。`too`と非常によく似た意味と使い方をしますが、『as well』の方が少しフォーマルで、書き言葉で使われることが多い傾向があります。例えば、"I like music, and I like movies, too." という代わりに "I like music, and I like movies as well." と言うことができます。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を表します。①の「うまく、上手に」は副詞の`well`の基本的な意味です。②「～と同時に」は`at the same time`。④「～の方が良い」は`had better`や`prefer`などで表現されます。

◆補足：`as well as`～という形になると、「～だけでなく…も」という意味の重要な接続詞句になります。例文: "He can speak French as well as English."（彼は英語だけでなくフランス語も話せます。）この形も頻出なので、併せて覚えておきましょう。

33.

解答 ①

【解説】

「resource」は、国や人の活動の助けとなる「資源」や「資金」「資質」などを意味する名詞です。特に、石油や石炭、森林などの天然資源を指して使われることが多いです。したがって、正解は①「資源」です。②「結果」は`result`、③「研究」は`research`、④「応答」は`response`という単語がそれぞれ対応します。

◆補足：`natural resources`で「天然資源」、`human resources`で「人的資源（人材）」というように、他の単語と組み合わせてよく使われます。複数形の`resources`で使われることが一般的です。例文: `Water is one of our most important natural resources.`（水は私たちの最も重要な天然資源の一つです）。

34.

解答 ②

【解説】

正解は②「お互い（に、を）」です。`each other`は代名詞で、二者（またはそれ以上）が、互いに同じ行為を及ぼし合うことを示します。`My brother and I often help each other with homework.`（兄と私は、よくお互いに宿題を手伝い合う）。①「（二者のうちの）もう一方」は`the other`、③「（不特定の）他の人々」は`others`、④「それぞれ」は`each`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`one another`も`each other`とほぼ同じ意味で使われます。一般的に、`each other`は二者の間で、`one another`は三者以上の間で使われるとされますが、現代英語ではこの区別はあまり厳密ではありません。

35.

解答 ④

【解説】

正解は④「最終的に、結局は」です。`in the end`は副詞句で、いろいろな過程や出来事があった末に、最終的にどうなったかという結果を述べる時に使います。`We considered many options, and in the end, we chose this one.`（私たちは多くの選択肢を検討し、最終的にこれを選んだ）。①「（期間や物の物理的な）終わりに」は`at the end`を使います（例: `at the end of the road`）。②「初めに」は`in the beginning`、③「要するに」は`in short`です。

◆補足：`in the end`は`finally`や`eventually`とほぼ同じ意味で、文頭や文末に置かれます。`at the end`が特定の「時点」を指すのに対し、`in the end`は一連の出来事の「結果」を指す、というニュアンスの違いを理解しておくと良いでしょう。

36.

解答 ②

【解説】

正解は②の`draw`で、主に二つの意味があります。一つは、鉛筆やペンなどを用いて線で「（絵や図）を描く」という意味です。`She drew a beautiful portrait of her mother.`（彼女は母親の美しい肖像画を描いた）。もう一つは、カーテンや引き出し、あるいは人の注意などを「～を引き出す、引く」という意味です。`He drew his sword.`（彼は剣を引き抜いた）。他の選択肢は、①`paint`が絵の具で「（絵）を描く」、③`write`が文字や文章を「書く」、④`pull`が物理的な力で「～を引く」という意味です。

◆補足：`draw`の活用は`draw - drew - drawn`という不規則動詞です。過去形や過去分詞形もよく使われるので、必ず覚えておきましょう。コロケーションとしては`draw a conclusion`（結論を導き出す）や`draw attention`（注意を引く）などが重要です。

37.

解答 ①

【解説】

正解は①「外食する」です。`eat out`は、家で食事をするのではなく、レストランなどの外で食事することを意味する句動詞です。`How often do you eat out?`（どのくらいの頻度で外食しますか?）。②「食べ尽くす」は`eat up`、③「早く食べる」は`eat quickly`、④「食べ始める」は`start eating`がそれぞれ適切な表現です。

◆補足：`out`には「外で」という意味があります。`go out`（外出する）や`hang out`（（家の外で）ぶらぶらして過ごす）など、`out`が付くことで「家の外での活動」を表す句動詞はたくさんあります。

38.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を予期する、期待する」です。動詞の`expect`は、何かが起こるだろうと「予期する、予想する」ことや、人や物事がどうあってほしいか「期待する」ことを表します。`The weather is expected to be sunny tomorrow.`（明日は晴れると予想されている）。`I expect you to be on time.`（君が時間通りに来ることを期待しているよ）。②「～を受け入れる」は`accept`、③「～を除いて」は前置詞の`except`、④「～を説明する」は`explain`です。

◆補足：名詞形は`expectation`（期待、予想）です。`meet one's expectations`（～の期待に応える）。`be expected to do`の形で「～するはずだ、～すると期待されている」という受け身の形でよく使われます。

39.

解答 ③

【解説】

正解は③の`hurt`で、自動詞として「（体の部分が）痛む」、他動詞として「（人・体）を傷つける」という意味を持ちます。精神的な痛みを表すのにも使われます。自動詞の例：`My back hurts.`（背中が痛む）。他動詞の例：`I didn't mean to hurt your feelings.`（あなたの気持ちを傷つけるつもりはなかった）。他の選択肢は、①`heart`が「心臓」、②`hard`が「硬い、難しい」、④`hunt`が「～を狩る」という意味です。

◆補足：`hurt`の活用は`hurt - hurt - hurt`と変化しないのが特徴です。`injure`も「傷つける」ですが、`injure`がより深刻な、事故などによる怪我を指すのに対し、`hurt`はより一般的な痛みを表します。

40.

解答 ②

【解説】

正解は②の`fare`で、バス、電車、タクシー、飛行機などの乗り物の「運賃、料金」を意味します。

`You must pay the exact fare.`（あなたは正確な運賃を支払わなければならない）。他の選択肢もお金に関する言葉ですが、①`fee`は弁護士や医者などの専門家への「報酬」や、入場料・会費などの「料金」、③`price`は商品の「価格」、④`cost`は何かをするのにかかる「費用、コスト」を指します。これらは文脈によって使い分ける必要があります。

◆補足：`a bus fare`（バスの運賃）、`an air fare`（航空運賃）。`How much is the fare to the city center?`（市の中心部までの運賃はいくらですか？）は、旅行中に使える便利な表現です。

41.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を取り除く、除去する」です。動詞の`remove`は、ある場所から何かを取り去ったり、汚れ、障害物、制限などをなくしたりすることを意味します。`He removed the stain from his shirt.`

（彼はシャツからシミを取り除いた）。②「～を修理する」は`repair`や`fix`、③「～を思い出す」は`remember`や`recall`、④「～を減らす」は`reduce`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：名詞形は`removal`（除去、撤去）です。`remove`は、`take off`（（服などを）脱ぐ）と意味が似ていますが、`remove`の方がよりフォーマルな響きがあり、汚れや障害物など、より広い対象に使うことができます。

42.

解答 ①

【解説】

正解は①「損害、損傷」です。名詞の`damage`は、物や人の身体、評判などに与えられる、価値や機能を損なうような「害」を意味します。文法的には数えられない名詞（不可算名詞）として扱われるのが基本です。`The earthquake caused widespread damage.`（その地震は広範囲にわたる損害を引き起こした）。②「危険」は`danger`、③「災害」は`disaster`が適切な単語です。④の`damages`は、`damage`に`s`が付いた複数形ですが、「損害賠償金」という法律用語になり、意味が全く異なるので注意が必要です。

◆補足：`damage`は動詞として「～に損害を与える」という意味でも使われます。`Smoking can seriously damage your health.`（喫煙はあなたの健康に深刻な害を与えることがある）。`do damage to`で「～に損害を与える」というコロケーションもよく使われます。

43.

解答 ④

【解説】

正解は④「中古の、間接的な」です。形容詞の`secondhand`は、主に二つの意味があります。一つは、物が新品ではなく、誰かが一度所有していた「中古の、お古の」という意味です。`I often buy secondhand books online.`（私はよくオンラインで古本を買う）。もう一つは、情報などが直接見聞きしたものではなく、「間接的な、また聞きの」という意味です。`I wouldn't trust secondhand information.`（また聞きの情報は信用しないだろう）。①「二番目の」は`second`、②「二流の、質の悪い」は`second-rate`、③「両手の」は`two-handed`です。

◆補足：`secondhand`は副詞としても使われ、「中古で、間接的に」という意味になります。`I bought this camera secondhand.`（私はこのカメラを中古で買った）。`secondhand smoke`は「受動喫煙」を意味する重要な複合語です。

44.

解答 ③

【解説】

正解は③の`network`で、「(網の目のような)組織網、ネットワーク」を意味します。`net`（網）と`work`（働き）が組み合わさった単語で、コンピュータ、人々、交通機関などが相互に接続された体系を指します。`Building a strong social network is important for your career.`（強力な人脈を築くことは、あなたのキャリアにとって重要だ）。他の選択肢は、①`net`が「網」、②`work`が「仕事」、④`teamwork`が「チームワーク」という意味です。

◆補足：`a computer network`（コンピュータネットワーク）、`a transportation network`（交通網）、`a social network`（人々のつながり）。動詞としても「ネットワークを築く」という意味で使われます。

45.

解答 ④

【解説】

正解は④「実際には」です。`in practice`は、「実際上は、現実には」という意味の熟語です。理論（`in theory`）や計画と対比して、現実の状況がどうであるかを述べるときに使われます。`In theory, anyone can become a millionaire, but in practice, it's extremely difficult.`（理論上は誰でも億万長者になれるが、実際にはそれは極めて難しい）。①「練習中に」は`during practice`、②「慣習として」は`as a practice`、③「有効で」は`in effect`などが適切な表現です。

◆補足：`practice`には「練習」の他に「実践、実際」という意味があり、そこからこの熟語が成り立っています。`in theory`（理論上は）と`in practice`（実際には）は、対で覚えておくと非常に便利な表現です。

46.

解答 ④

【解説】

正解は④の`nothing but`で、「ただ～だけ、～にすぎない」という意味です。`only`とほぼ同じ意味で、それ以外のものは何もないことを強調します。`I want nothing but the truth.`（私は真実だけが知りたい）。他の選択肢は、①`anything but`が「決して～ではない」、②`more than`が「～より多い」、③`less than`が「～より少ない」という意味です。

◆補足：`nothing but`と`anything but`は形が似ていますが、意味は正反対なので注意が必要です。`His words were nothing but lies.`（彼の言葉は嘘にすぎなかった）。`His story was anything but boring.`（彼の話は決して退屈ではなかった）。

47.

解答 ④

【解説】

正解は④「実のところ」です。`as a matter of fact`は、「実のところ、実際は」という意味の熟語です。前に述べたことを強調したり、訂正したり、あるいは意外な事実を付け加えたりする際に使われます。`He looks young. As a matter of fact, he's a grandfather.`（彼は若く見える。実のところ、彼はおじいさんなのだ）。①「事は重大だ」は`The matter is serious.`、②「問題外で」は`out of the question`、③「どんなことがあっても」は`no matter what`が適切な表現です。

◆補足：`as a matter of fact`は`in fact`や`actually`とほぼ同じ意味で、文頭に置かれることが多いです。よりフォーマルな響きを持つことがあり、相手の発言を丁寧に補足する際などに役立ちます。

48.

解答 ②

【解説】

正解は②の「最近、近頃」です。`lately`は、過去から現在までの比較的短い期間、つまり「最近、この頃」を表す副詞です。現在完了形と共に使われることが非常に多いのが大きな特徴です。「最近、～しましたか？」や「最近、～していません」のように、過去のある時点から現在までの経験や状態について述べるときに活躍します。他の選択肢は、それぞれ異なる時間を表す表現です。①の「遅れて」は`late`。③の「後で」は`later`。④の「遅かれ早かれ」は`sooner or later`となります。スペルが似ている単語が多いので、混同しないように注意が必要です。

◆補足：『lately』と似た意味の単語に 'recently' があります。多くの場合で交換可能ですが、『lately』が現在完了形と結びつきやすい（継続的なニュアンス）のに対し、'recently' は過去形ともよく使われます。まずは「lately = 最近」と覚え、現在完了形との相性が良いことを知っておきましょう。例文: "Have you seen any good movies lately?" (最近、何か良い映画を見ましたか?)

49.

解答 ③

【解説】

正解は③「必ず～する」です。`never fail to do`は、「～しそこなうことはない、必ず～する」という意味の強い肯定を表す表現です。`never`（決して～ない）と`fail`（失敗する）という二つの否定的な要素が組み合わさることで、「失敗することがない」→「必ずする」という二重否定になります。`He never fails to call his mother on her birthday.`（彼は必ず母親の誕生日に電話をする）。①「～しそこなう」は`fail to do`、②「決して～しない」は`never do`、④「～する必要はない」は`never need to do`などです。

◆補足：この表現は、`always`を使った文とほぼ同じ意味を表すことができます。`She never fails to impress me.` は `She always impresses me.`（彼女はいつも私を感心させる）と言い換えられます。

50.

解答 ④

【解説】

正解は④の「電子工学、電子機器」です。『electronics』は、電子の動きを応用した技術分野、つまり「電子工学」を指します。また、その技術を使って作られた製品、すなわち「電子機器」（テレビ、コンピューター、スマートフォンなど）そのものを指す場合も非常に多いです。通常、複数形の`s`を付けて使われ、学問分野を指す場合は単数として扱います。他の選択肢は全く異なる単語です。①の「優雅さ」は`elegance`。②の「電気」は`electricity`。③の「エレベーター」は`elevator`です。スペルや発音が似ている単語に惑わされないよう、正確に覚えましょう。

◆補足：電気製品店は "an electronics store" と言います。形容詞形は `electronic`（電子の）で、"electronic mail"（電子メール、Eメール）のように使われます。この `electronic` と、電気の力で動く一般的な機器を指す `electric`（電気の）との使い分けも、重要なポイントです。
